



令和 7 年 7 月 17 日（木）配信

8020 達成者率は 61.5%へ増加 令和 6 年歯科疾患実態調査

令和 6 年歯科疾患実態調査の結果（概要）が 6 月 26 日に厚労省より公表された。
8020 達成者率は 61.5%（前回令和 4 年調査では 51.6%）となり、6 割を超えた。

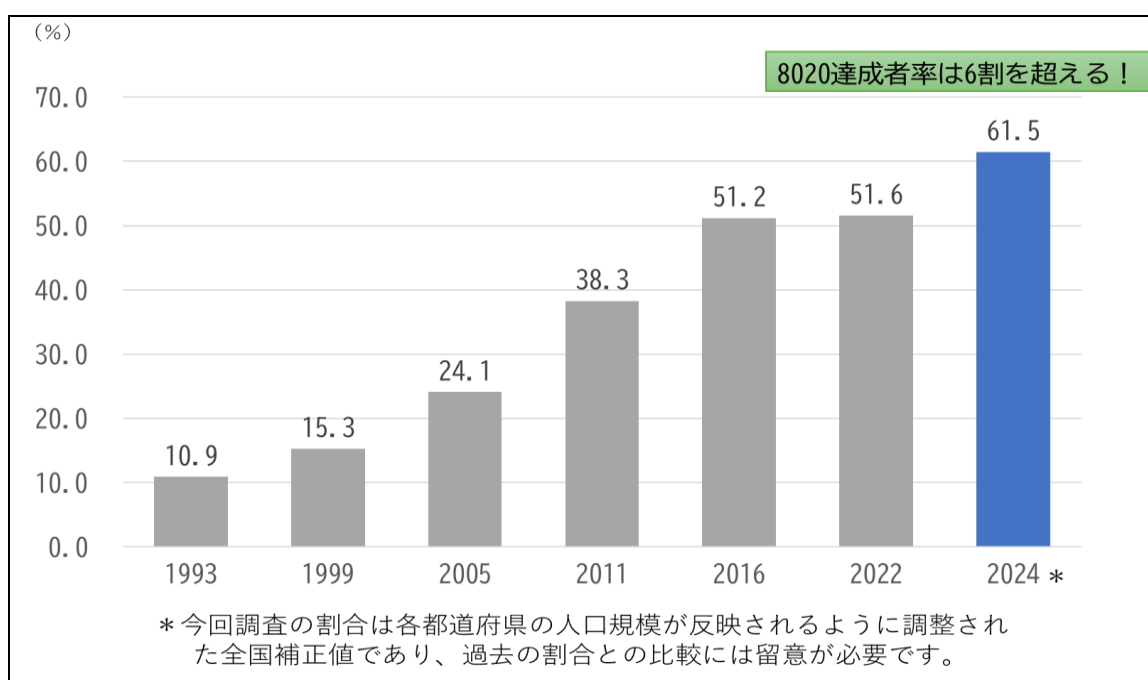


図 1 8020 達成者率の推移

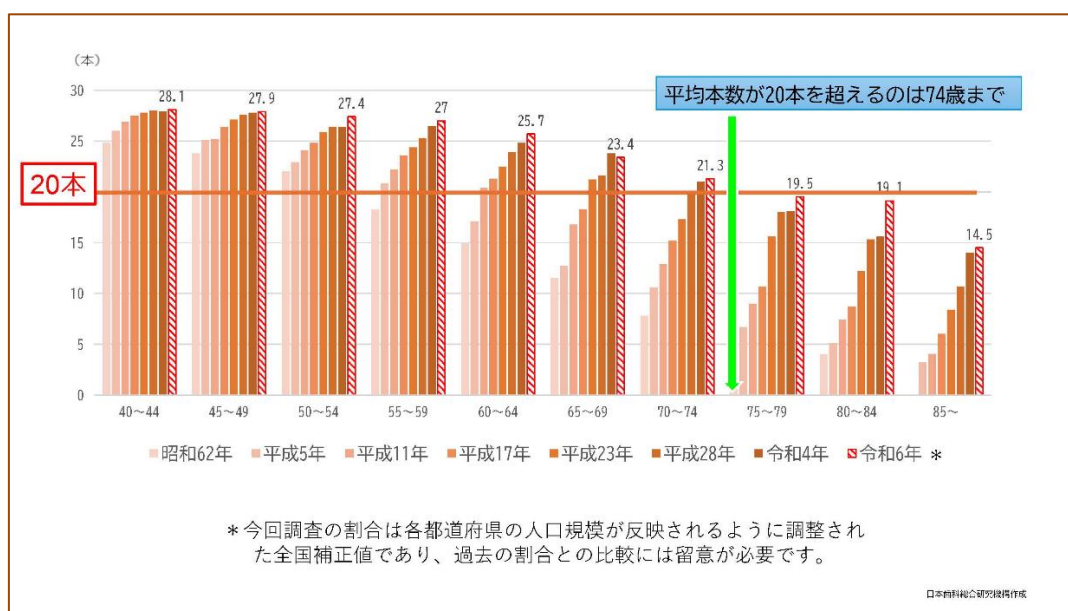


図 2 1 人平均現在歯数の経年推移

1 人平均現在歯数は 65～69 歳群以外では増加する傾向を認めた。令和 4 年調査同様に平均 20 歯以上を保有する年齢群は 70～74 歳群までとなっている。

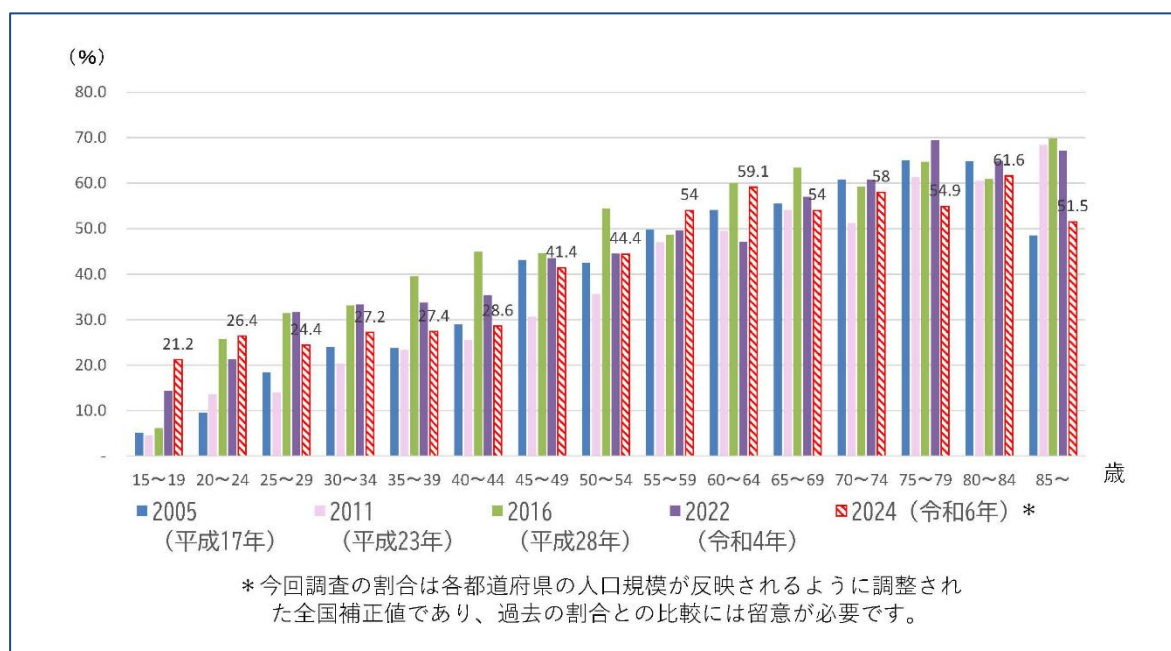


図3 歯周ポケット（4 mm以上）を有する者の割合の経年推移

歯周ポケット（4mm以上）を有する者の割合は年代が上がるにつれて増加する傾向にあり、最も割合が高い年齢群は 80～84 歳で 61.6%、次いで 60～64 歳で 59.1%であった。また今回調査では 15～24 歳群も 2 割を超えており、さらに早期からの対策も必要と思われる。2024 年以降、歯周病検診に 20 歳・30 歳を追加しているが、より早期からの対策が必要であることが改めて浮き彫りになった。

この 1 年間に歯科検診（健診）を受診している割合は 63.8%と前回調査より増加しており、（かかりつけ）歯科医院での定期的な検診（健診）が最も多く 55.7%であった。

歯や口の状態で気になるところでは、「冷たいものや熱いものがしみる」が 25～59 歳まで約 1 割以上存在し、「歯をみがくと血が出る」は 60～64 歳で最も高く 12.8%存在した。口の機能面では、60 歳以上では噛めないものがあるという回答が増加し、85 歳以上では 2 割を超えていた。「口がかわく」という回答も年齢とともに増加しており、う蝕・歯周病対策とともに、オーラルフレイルや口腔機能低下への対策の推進も必要である。

今回の調査は、基本的事項（第二次）におけるベースラインの設定等に活用することとなり、厚生労働省を含め関係団体等とともに国民の歯・口腔の健康の獲得・維持・増進及び健康寿命の延伸に資するため、生涯を通じた歯科健診の実効化を含む歯科口腔保健の推進を図ってまいります。

●問い合わせ先

公益社団法人日本歯科医師会 広報課

TEL：03-3262-9322

FAX：03-3262-9885

日本歯科医師会ホームページ <https://www.jda.or.jp/>



日本歯科医師会 PR キャラクター